

CASBEE神戸ver.2 【仮称】マックスバリュ井吹台店 新築工事		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.2		■評価ソフト: CASBEE神戸ver.2 / CASBEE-BD_1		
スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>				<b>1.8</b>	0.15	-	-	<b>1.8</b>
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音				<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				1.0	1.00	3.0	-	
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20	3.0	-	
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.0</b>	0.35	-	-	<b>3.0</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.44	3.0	-	
2 外皮性能				3.0	0.21	3.0	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.35	-	-	
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30	3.0	-	
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.9</b>	0.25	-	-	<b>3.9</b>
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.51	-	-	
1 昼光率				-	-	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	1.00	3.0	-	
3.2 グレア対策				-	-	-	-	
1 昼光制御				-	-	3.0	-	
3.3 照度				-	-	3.0	-	
3.4 照明制御		フル2線式リモコンを採用し1作業単位で制御可能、かつ自動制御可		<b>5.0</b>	0.49	3.0	-	
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.7</b>	0.25	-	-	<b>3.7</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	-	
2 自然換気性能				-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	-	
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		建物内は全面禁煙とする。		5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>				<b>4.2</b>	0.40	-	-	<b>4.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の円滑化誘導基準を満足する。		4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		売場の天井高さは3.6mとする。		5.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		イートインスペースを売場面積の5%以上確保している。		5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		内装、照明計画はコンセプトを明確にし、事前検証を行う。		4.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		評価する項目数を、標準以上実施している。		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		評価する項目数を、標準以上実施している。		4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.9</b>	0.30	-	-	<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性			2.6	0.20	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	-
1	階高のゆとり	売場天井高さの3.6mが確保できる階高とする。	5.0	0.60	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ	売場内部空間は間仕切壁等がない。(壁長さ比率=0.09 < 0.1)	5.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	-
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.34	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		外壁・窓等を通しての熱損失防止措置:[BPlm] = 0.93 ≤ 1.00	3.5	0.12	-	-	3.5
2 自然エネルギー利用			3.0	0.11	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEIm 非住宅 0.73 住宅(専有部) -	4.0	0.55	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		空調設備等のエネルギー効率利用措置[BEIm] = 0.73 ≤ 1.00	4.0	1.00	-	-	-
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.22	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器を採用し、女子便所には超音波装置を設置する。	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		屋内用品(シートシャッター・ダイヤモンドミニ/クイックセーバーSR)	3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		建物の仕上は軽量鉄骨下地を使用する。	4.0	0.20	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	発砲断熱材を用いていない。	5.0	0.50	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車場、専用の荷捌きスペース、出入口を2箇所確保。	5.0	0.25	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-	-
2	振動		-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-